

令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	本町そよかぜこども園
施設所在地	渋谷区本町6-6-2
法人名	社会福祉法人渋谷区社会福祉事業団

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
話を聞く為には、興味をもって「聞く」という経験をすることが大切だと考えた。身近な音探しから「聞く」事を楽しみ、目に見えない音を自分なりに表現しながら探究していく。

2. 活動スケジュール

【問いを考える】

「音って何だろう」と子ども達と一緒に考え、出てきたつぶやきから次の問いに繋げていく。

【環境をデザインする】

身近な音を室内外で見つけられるようにする。絵を描いたり、楽器の手作りができるよう色々な素材を用意する。

【探究活動を実践し、記録する】

見つけた音を録音したり、絵画で表現したり、自分達で楽器を作ったりしながら、音を探究していく。探究活動の様子は写真、動画で記録する。

【振り返る・共有する】探究後、グループの子ども達と振り返りをする。午睡時に担任間で振り返りを共有し、次の探究活動の方向性を考える。全グループが終わった所で、探究活動時撮った写真を活用し子ども達と共有する。保護者には、クラス前の掲示で共有をする。また、活動を物語の中に組み込んだ劇を作り保護者に見せ発表する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子ども達同士でも共有しやすいよう4人程度の少人数でのグループ活動とした。録音、録画も取り入れ、気づきをより共有しやすいようにした。

準備した物：カメラ・ボイスレコーダー・ビデオカメラ・モール・鈴・ペットボトル・ペットボトルキャップ・トイレットペーパー芯・紙皿・コピー用紙・ボール・色画用紙・クレヨン・色鉛筆

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

自分が見つけた音についてクラスで共有する。見つけた音を録音したり、絵画で表現したりしながら、音を探究していく。活動を物語の中に組み込んだ劇を作り、保護者や在園児、他クラスの保育者に見せ発表した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・身近な物の音探しでは、物を叩いたり音を出したりして探す子と物に耳を当て聞く事で音を探す子がいた。聞こえた音の表現もオノマトペであったり、自分なりの表現であったりし、共有しづらさもあった為、ボイスレコーダー等を使い共有していった。いろいろな音の録音を聞き、音の高さや大きさなどの違いに気づき、再び試したりして楽しんでいた。また、自分が感じた音を絵画で表現し共有していった。見つけたいろいろな音を保護者にどう伝えていくかの問いに「発表会でやればいい」という発言があり、手作り楽器を作ったり、自分が見つけた音をストーリーの中に入れたりして発表会に繋げていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・音は、視覚的なものではないので共有のイメージを持つ事がなかなか難しかった。「どうしてだろう?」「何故?」といった問いかけになかなか言葉が出てこなかったり、問いに対する答えではないような発言があったりし、どのような問いかけをしたら子ども達に伝わりやすいのかと悩んだ。通常の保育から保育者が一方的に伝えることが多かったり、一緒に考えるという機会が少なかったのかもしれないと思った。少人数で子どもとじっくりと向き合える時間だからこそ、言葉にならない表現を言葉に変えたり、丁寧に子どもに向き合っていくことを大切にしていきたいと思った。また、広い場所での音探しでは、ヘリコプターの音が聞こえて来たのだが、「ただのヘリコプターでしょ」と言って子ども達は反応しなかった。探究を進めていくうちに、子ども達にとって、自分が触れたり関わって聞こえて来るものを探求の「音」として捉えているのではと思った。探究する事の意味を子ども達の方が分かっていたと反省した。